

読書のすゝめ

その 18 H 27 10 / 19

「いつだって、読書日和」
第69回読書週間（10・27～11・9）



「読書週間」マーク
知恵の象徴ふくろう

「読書週間」の「週間」を「しゅうかん」と打って変換させたところ、「習慣」と出ました。なるほどなあ。これはこれでいいような気がしました。
「週間」のイベントで終わるのではなく、「習慣」になったら良いですね。

「読書週間」について

終戦の2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒に、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから60年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。そして、「読書週間」が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはかわりありません。



『手紙にそえる季節の言葉365日』山下景子（朝日新聞出版）
手紙は贈り物。印象的な手紙を書いてみませんか。花日和、陽炎、黄葉、寒影……。豊かな季節のめぐりから、数々のことが生まれしました。本書では一日に一語、季節や季節感を表すことばを説き、そのことばを使った手紙文例を紹介しています。365日、いつも季節のことばの情緒に触れ、大切な人へ手紙をつづるための1冊です。



『17音の青春』神奈川県立神奈川大学広報委員会編（角川学芸出版）
若手俳人が続々誕生する神奈川大学全国高校生俳句大賞。選考委員を驚かせた高校生たちの名句集。五七五で綴る高校生のメッセージです。
* 日焼けして大きな夢を語りけり（岩手県・高橋倭子）
* 秋野ゆく観音すらし並びをり（神奈川県・田村明日香）
* 頬杖や同じ裸木ばかり見て（愛媛県・森優希乃）
* メルカトル図法の歪み夏はじめ（茨城県・坂入葉月）

※ 毎月 図書委員さんが昇降口の掲示板に『新着図書』の案内を作ってくれています。先月（9月）は3年7組さんでしたが、絵心のあるクラスメイトも参加して、きれいな案内を作ってくれました。

今月は1年2組・3組の図書委員さんが、新着図書と文学散歩について作ってくれました。

「秋の夜更」本に親ごもっ!

